

「はたちの献血」キャンペーン月間 (1/1～2/28) について

沖縄県赤十字血液センター 宮国 毅



キャンペーンキャラクターは県出身タレント
新垣結衣さんです。

今年も1月1日から2月28日までの2ヶ月間、全国一斉に「はたちの献血」キャンペーンが展開されています。このキャンペーンは、「血漿分画製剤を含むすべての血液製剤」を国民の献血により確保する体制を早期に確立することを目指し、成人式を迎え社会へ第一歩を踏み出そうとしている若年層を対象に、献血思想を啓蒙するため毎年行われているものです。厚生労働省・都道府県および日本赤十字社が主催し、マスコミ・報道機関の協力のもとで展開されます。

キャンペーンのパーソナリティは本県出身のタレント新垣結衣（あらがき・ゆい）さんで、

「支えようよ。若い力で。」をキャンペーンフレーズに、はたちを中心とした若者達へ、献血への理解と参加協力を呼びかけています。新垣さんは、ファッション雑誌のモデルやテレビドラマ、CMなどで幅広く活躍中ですので、ご記憶の方も多いことでしょう。弱冠18歳ですが、今年は映画出演も決定しており、現在最も注目されているタレントのひとりです。彼女は血液の安定確保の将来を担う若年層から高い支持を受け、若者代表としてはたちの献血キャンペーンを応援していきます。彼女の初々しくも愛らしい笑顔が満開のポスターは、若者から引っ張りだこのため現在品薄ですが、キャンペーン期間中は献血会場やイベント会場で配布する予定です。医療機関にも配布しますので、院内で掲示してください。彼女はポスターに登場するだけでなく、テレビやラジオでも献血を呼びかけています。「新垣結衣、はじめての献血」と銘打って、はじめて体験した献血と、初々しい感想をCMで表現しています。（日本民間放送連盟加盟局にて実施中）

二十歳の献血キャンペーンは、今年で33年目となりますが、県内でも表に示すように各種イベントが予定されています。

血液製剤の適正使用、とくにFFPの使用量の削減を

輸血後感染症のリスクについては、スクリーニング検査から核酸増幅検査（PCR）にいたるまで、莫大な投資を行って精密な検査をすすめてきた結果、血液製剤自体の安全性については、もう限りなくリスクが0に近くなるまで低下しています。HCV、HIVについては、もうほ



キャンペーンポスター（新垣結衣さん）

//////////////////////////////// 月間(週間)行事お知らせ //////////////////////////////////

とんど評価できるほどのリスクは存在しませんし、HBV感染についても、35～45万本の輸血に対して1件の割合でしか、感染は起こりません。しかしながら、マラリア、西ナイル熱、シャーガス病など、旅行者が持ち込んでくる輸入感染症については、未だにスクリーニング検査ができないものもあります。一方、輸血の際の免疫反応による副作用については、GVHD など一部は技術の進歩で問題が解決したものの、白血球による非溶血性輸血反応やアナフィラキシー反応、TRALI（輸血関連急性肺障害）等の問題は、未だに解決されておられません。つまり、輸血医療のリスクを0にすることは将来的にも不可能であり、輸血は補充療法に過ぎないことから、今後とも輸血の適応については、十分に検討の上、不必要な輸血をさけるようお願いいたします。

わが県の赤血球製剤と血小板製剤の使用量は、全国的に見て平均的水準にあります。しかし、従来から是正勧告を受けております新鮮凍結血漿（FFP）の使用量は依然として高い水準にあるので、今後は輸血医療を日常的に行っている医療機関においては、とくにFFPの使用（凝固因子の補充のみが適応です）について、



血液センター一日所長による献血（パレットくもじ献血ルーム）

適応外の使用の内容をチェックできる管理体制（輸血管理室の設置と責任医師の任命）の構築が望まれます。行政側の推進している「血液製剤の使用適正化事業」とは新鮮凍結血漿等の使用を他の先進国並みに抑えることによって、血漿分画製剤を含む全ての血液製剤の国内需要を国民の献血でまかなえる状態にするのが最終的な目標であります。国内自給を達成するためには、若者への献血の呼びかけと同時に、医療現場での適正使用の徹底によるFFP使用量の削減が必須ですので、ユーザーである臨床医のご協力を宜しくお願いいたします。

平成 19 年「はたちの献血」キャンペーン、主なるイベントと街頭献血など

イベント	実施月日	実施場所	備考
県知事メッセージ	1月3日 成人の日	地元2紙に掲載 成人式典会場での詠読	琉球新報、沖縄タイムス 各市町村
街頭でのピラ配布	1月5日(金) 16:00-16:30	パレットくもじイベント広場	
血液センター一日所長	2月14日(水) 11:30-12:00	パレットくもじ献血ルーム前 (シーサー広場)	県内の大学生が一日所長を演 ずる
献血教室の開催	調整中	高等学校を予定	受血経験者の体験談有り
ハートフルレディース献血	1月10日(水)	サンエーメインプレス那覇	沖縄県生命保険外務員協会等 の協力
沖縄県生コン工業組合青年部 献血会	1月19日(金)	沖縄県生コン工業組合会館	生コン工業組合青年部による 大規模献血会

アレルギー週間 (2/17～2/23) に因んで

～アナフィラキシーに関する治療の最前線 (エピペンの紹介)～



嘉数医院 院長 嘉数 朝一

はじめに

2004年、8月にアメリカで映画俳優のダスティン・ホフマンさんが蜂に刺され、アナフィラキシーショックで命の危険に陥った女性を助けたことが大きく報道されました。記事の内容はロサンゼルス近郊の有名なマリブ・ビーチで女性が蜂に刺され、数分後には彼女は目に強い痛みを訴え、全身に発赤腫脹と呼吸苦が出現し、いわゆるアナフィラキシーショックと呼ばれる状態に陥っていました。

同行していた友人が警備員やライフガードに連絡し、救急車を要請しましたが、女性の症状はすぐに緊急処置をとらないと命に関わる状態にまで悪化していました。

たまたま現場を通りかかったのが、ホテルに帰る途中のダスティン・ホフマン夫妻だったのです。

ホフマン夫人も実は重度の蜂アレルギーだったためアナフィラキシー出現時に対応する薬を常に持参しており、夫のホフマンさんがこの薬を女性に注射をした後、救急車で搬送され、アナフィラキシーショックから彼女を救ったとの報道内容でした。

さて、ホフマン夫人が持っていた蜂アレルギー

ーに対する救急薬とはいったい何だったのでしょ
うか。

それは、アナフィラキシー発現時の補助治療薬で自己注射用エピネフリン注射液「エピペン」という薬剤です。周知のごとく、アナフィラキシーショックにおける救急処置として第一選択は、エピネフリンという注射薬です。このエピネフリンが注射針一体型の携帯用注射セット「エピペン」(図1)という製品名で平成15年に蜂アレルギー患者に対して日本でも処方が可能になり、蜂に刺された際にその場で患者自身が注射することが可能になりました。

実はエピペンは、諸外国では20年以上も前から使用されていましたが日本ではなかなか承認されず、ようやく平成15年に蜂毒に対してのみ承認があり、平成17年4月には食物や薬剤によるアナフィラキシーにも使用が認可されました。近年、食物アレルギーの患者(特に小児)が増えてきており、アナフィラキシーを起こしたときのプレホスピタルケアにこの薬が重要な治療補助剤であると位置づけられたからです。

今回はアナフィラキシーとはいったいどういう状態を意味するのか、エピペンの適応患者とは、購入方法、処方仕方、使用方法、今後の使用時における問題点について説明いたします。

1) アナフィラキシーとは?

アナフィラキシーとは、アレルギー反応のうち、重篤で生命の危険を伴い得る反応を意味します。(アナフィラキシーの語源とは防護状態—phylaxisと反対—anaを合成したものです)。

蜂毒や食物、薬物等が原因で起こる急性アレルギー反応の一つで原因物質が体に入ると、数分から1時間以内に唇のしびれ、蕁麻疹、腹痛などの初期症状に続き、のどに詰まった感じ、



図1

めまい、さらに治療が遅れると呼吸困難、血圧低下、意識障害などのアナフィラキシーショック症状となることがあり、一般的には早急な救急処置が必要とされます。統計によると、わが国では毎年50～60人の死亡者が報告されており、特にショック症状を起こしてしまうと血圧の急激な低下、脳への血流が20～30分間停止するという深刻な事態を招きます。アナフィラキシーショックの状態になった際には、早急に適切な処置をとらなければなりません。

2) エピエンの適応患者

これまでに蜂に刺されたり、特定の食物や薬剤で重度のアナフィラキシー症状を起こしたことがある、または起こす危険性の高い患者さんを対象とします。

甲状腺機能亢進症、重症不整脈症、糖尿病の患者さんには慎重な使用が警告されています。

3) 購入方法、処方、使用方法について

エピペン処方医師に登録された医師のいる医療機関のみで処方が受けられます。処方ができるためには講習受講が必要となります。

自己注射のため、厚労省は医師による患者および保護者へのインフォームド・コンセントの実施を義務付けています。また、十分かつ適切な指導ができる医師のみが処方することが承認要件となっているため、販売元のメルク社は、講習会に参加した医師だけに納入するシステムを取っています。既に全国で約5,000人の医師が講習を終え、処方できる態勢になっています。

エピペンは、保険適応はなく完全な自由診療で処方されるため、薬価は決められていません。

実勢価格は診察費込みで1本当たり1万～2万円となっています。1回の診察で処方できる本数は通常、1本が適当とされていますが、医師の裁量に任されています。

保護者からの要望を考慮すると、1本は携帯用、もう1本は家庭での常備用などとして、2本処方するケースが多くなるのではないかと厚労省は考えているようです。

エピペンは直径約17mm、長さ約145mmの円筒形となっています。使う際は、注射器の末端

にある安全キャップを外し、しっかりと握ったまま大腿部の前外側に強く押し付け、その力で内蔵されているばねが針を押し出し、筋肉注射できる仕組みとなっており、服の上からでも注射は可能です。通常、エピネフリンとして0.01mg/kgが推奨用量であり、患者の体重を考慮して、エピネフリン量0.15mg又は0.3mgを筋肉内注射します。通常、成人には0.3mg製剤を使用し、小児には体重に応じて0.15mg製剤又は0.3mg製剤を使用することになっています。

詳しい使用方法はエピペンのホームページ <http://www.epipen.jp> で確認してください。

4) 今後の使用時における問題点

処方対象となるのがインフォームドコンセントを受けた本人、保護者またはそれに代わり得る適切な者となっています。適切な者がどの範囲まで含まれるのか明確になっていません。

例えば食物アレルギーの小児が校内でアナフィラキシーを起こしたとき、本人が注射できない状態の場合、養護教諭や担任の教師がエピペンを使用し注射をすると医療行為になるため現行ではまだ施行できない状態です。差し迫った課題として保育園、学校などでどう対応するかが問題になります。さらに今後の課題として、救急救命士がエピペンを打てるような早急な法的検討も議論される必要があります。

最後に

エピペンは蜂毒、食物、薬物アレルギーを改善する薬剤ではなくアナフィラキシー等の症状を緩和する薬剤であり、あくまでも緊急時の補助治療薬であって医療機関での治療に代わり得るものではないこと、またアナフィラキシー発現状況は多様であり、本剤を投与したからといって必ずしも有効であるとは限らず、本剤による治療には限界があることを、患者さんに理解してもらう必要があります。また、本剤使用後には直ちに医師の適切な治療を受けることを患者さんに十分に説明しなければなりません。

今後、エピペンがアナフィラキシーを起こす可能性が高い人々にとっては非常に大切な生命線ともなり得る自己注射液と考えられます。